**地域密着型サービス運営推進会議記録（第　６　回）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 施設名 | グループホーム花乃苑 | |
| 施設種類 | 認知症対応型共同生活介護 | |
| 開催日時 | 令和　５年　３月　１３日　　１４時００分　～　１５時００分 | |
| 会場 | グループホーム　花乃苑　羽ノ浦 | |
| 参加者 | 利用者代表 | 1人 |
| 利用者家族代表 | ０人 |
| 民生員 | ０人 |
| 高齢者お世話センター | ０人 |
| 市職員 | ０人 |
| 他事業所 | ０人 |
| 有識者 | ０人 |
| 事業者 | ５人 |

|  |  |
| --- | --- |
| 報告事項 | 1. 現状報告   **新型コロナウィルス感染症による感染予防のため自施設のみでの開催**  ２．入居者数　（R5.3/13現在）男性4名　女性13名　　合計17名  　《要介護別》　要介護１（３名）要介護２（５名）　要介護３（９名）  　　　　　　　　要介護４（０名）要介護５（０名）    ３．入・退居者　(R4.12/26～R5.3/13)  　　　　　　　　12/28　退居　要介護3　男性　入院のため  1/ 8 退居　要介護3　男性　入院のため  1/11 入居　要介護3　男性　在宅より  1/13　 入居　要介護2　女性　在宅より  2/21　 退居　要介護5　女性　逝去のため    ４．活動内容　　お誕生会　初詣　節分　桃の節句　ドライブ |
| 議題① | 「2/12～新型コロナクラスター発生」  　2/12午後、利用者18名のうち3名に発熱症状がみられ、抗原検査を実施したところ3名とも陽性確認。全利用者・全職員に検査を実施し、当日は公休であった職員2名に陽性確認。直ちに感染対策をとり陽性者は居室対応を行う。2/28までに利用者13名、職員5名が陽性となった。主治医、保健所と相談しながら、利用者1名は肺炎症状がみられ医療センターへ入院（1週間で退院）、終末期の利用者1名は死亡。比較的軽症であった利用者11名は施設内療養となった。今後も感染対策の意識と知識をしっかり持ち、早期発見・早期対応で感染の拡大を最小限に留められるように努めたい。  （感染拡大の原因として考えられること）  ・認知機能低下によりマスクの装着が難しい利用者が多い。  ・陽性となった利用者が感染を自覚できず、共有スペースに出て来られることが何度もあった。居室内での療養が理解できない。  ・居室内にトイレ、洗面所がないため、個室隔離は難しい。  ・共有のトイレ、洗面所は陽性者と陰性者を分けて使用したが、感染者が増加することで、陽性者と陰性者のゾーニングが難しくなった。  ・利用者は生活全般に介助が必要であるため、利用者と職員の接触は避けられず、利用者か職員のどちらが感染しても、双方に感染させる可能性が高い。 |
|  |
| 課 題 ② | 「身体的拘束適正化・高齢者虐待防止委員会」  突然のコロナ蔓延で職員も感染し不足する中、感染拡大を防止するための苦肉の策として、陽性者の居室とトイレを含むエリアをパーテーションや家具等で仕切ることでゾーニングを行った。しかし、状況の理解が難しい利用者は、陽性エリアから移動できないことに苛立ち、立腹されることも多かった。コロナの症状に加え、限られた空間内での生活、他者との交流遮断、運動不足等、環境面でのストレスも加わり、食欲不振や意欲低下、認知症の悪化がみられる利用者もいた。療養期間終了後は速やかに規制を解除し、元の生活に戻っていただくことで、徐々に症状は改善されている。  今回のことから、利用者の行動を制限することが身体的・精神的に大きな苦痛を与え、心身に悪影響を及ぼすことになると改めて理解できた。この事を教訓とし、今後も安易に身体拘束を実施したり、不適切なケアを行うことがないようにしたい。ケアの方法については職員同士で相談・確認し、定期的に身体拘束や高齢者虐待の研修も行い、更に知識を深めていきたい。 |
| その他 | 〈外部研修〉  ・2/26　「新型コロナ感染症のパンデミックにおけるACP」  ・3/ 2 「認知症介護基礎研修」  ・3/11　「高齢者虐待と身体拘束」  〈内部研修〉  ・1/24　「ターミナルケアについて」 |